

日中韓 3ヶ国語における類義語「完全」「完璧」の認知意味論的分析

全 学 子 橋 本 敬

北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科

Abstract

本研究では、理想的な状態を表す類義語「完全」「完璧」と、対応する中国語・韓国語の類義語を取り上げ、認知意味論のアプローチで考察を行う。認知意味論では、認識主体の解釈に基づいた経験が言葉の意味に反映していると考えられている。母語話者は類義語を何気なく使い分けているが、その差異を記述することは難しい。この類義語を多言語間で認知意味論的に分析することで、言語使用の背後にある日中韓 3ヶ国語話者の認知傾向やものごとの捉え方を考察できる。「完全」「完璧」の比較分析によって 2語の使用の背後に量と質という視点の違いがあることが分かった。また、比較分析及びインフォーマントテストの結果、対応する単語の意味に各言語間で相違点があることが見出された。これらの結果は 3ヶ国語話者で理想状態の捉え方に若干の違いが存在する可能性を示唆している。

1. はじめに

どのような言語でも類義語がある。母語話者は意味が似通った類義語をうまく使い分けることはできるが、その微妙な違いを記述できないことが多い。そのような類義語を母語話者が使い分けられるのは、日常的な経験によるものだと考えられる。特に認知意味論では、経験を基盤として言語の意味を考える。フィルモア、レイコフ、ラネカーらの認知言語学者は認知意味論の立場をとり、意味を認識との関連で捉え、言語的意味は言語使用者の外界認識の産物であり経験に基づくものであると主張している(松本, 2003)。

一方、対照言語学では、多言語間にある言語表現の差が母語話者の発想の違いに基づいている場合があることを指摘している(石綿・高田, 1990)。例えば國廣(1974)は日英の比較研究で、日本語は状況中心であり、英語は人間中心だということを述べている。

類義語の認知意味論的分析と対照分析を組合せることにより、複数言語間での意味の重なりや相違を明らかにすることができる。これは個別言語の言葉の意味をより詳しく抽出することにも繋がる。さらに、対応する類義語の対照分析によって、近い概念に対する母語話者の認識の違いをあぶり出せる可能性がある。

本研究では、理想的状態を表す言葉である「完全

と「完璧」の意味を日中韓 3ヶ国語で対照分析し、背後にある言語使用者の経験に基づいた意味の捉え方や認知傾向を見出すことを目的とする。理想的な状態をどう認知し、どう表現するかという点に各母語話者の価値観が反映しやすいと考え、「完全」「完璧」を分析対象に選んだ。この 2語の日中韓 3ヶ国語の辞書的な対訳を分析の出発点とする。

2. 分析方法

本研究では類義語「完全」「完璧」をベースとプロフィールの観点から分析する。認知言語学では、ある語の意味を特徴づける際に必要となる概念の領域を認知領域(cognitive domain)という。語の意味を適切に捉えるためには、関係する認知領域のある一部分が特に重要である。それらを説明できるのが「ベース」と「プロフィール」である。「ベース」とは語の意味の記述に必須の認知領域の一部であり、「プロフィール」とは、ベースのなかで語の意味が直接指し示す部分のことである(靱山, 2002)。

例えば「昨日」という語の意味は、「時間」という認知領域における「発話時点を含む日」と「その前の日」という「二日間」が「ベース」であり、「その前の日」が「プロフィール」だと考えられる。

このような方法により、ある語が認知領域のどこにどのように焦点をあてるのかを分析できる。従って、類義語の用法で一方のみ使えるが他方は用いな

い場合の意味の違いを説明することができる。類義語「完全」「完璧」に対してこの分析方法を用いることで、これら2語を適切に使い分けの言語使用者がどこにどのように焦点を当てるかを考察する。

本研究では30個の例文を用意し、各国語の母語話者(日:42人、中:34人、韓:36人)にインフォーマントテストを実施する。その結果を基にして、認知意味論的分析と対照分析を行う。

3. 認知意味論的分析

「完全」と「完璧」は、日中韓3ヶ国語でそれぞれ以下のような訳語が対応する。

完全(日) ⇨ 「完全(wanquan)」(中)

⇨ 「완전(wan-jeon)」(韓)

完璧(日) ⇨ 「完美(wanmei)」(中)

⇨ 「완벽(wan-byeog)」(韓)

本節では日中韓3ヶ国語それぞれの意味を分析する。

3.1 日本語の類義語「完全」「完璧」

まず、日本語の類義語「完全」「完璧」の意味の違いについていくつかの例文を用いて分析する。分析においては例文の先頭に○、?、*の印をつける。○は語の用法が適切であることを表し、?は適切とは言えないが間違ってもいないことを表す。また、*は非文であることを表す。

1. ○設備が完全/完璧に整った。

ここで「完全」と「完璧」は入れ替えられることから、意味が相当近い類義語であると言える。「完全」と「完璧」は両方とも肯定的・理想的な状態を意味し、「全体における枠の中で各要素・部分がすべて備わっていて、欠けていない状態」を表している。これが共通のベースと考えられる。

「完全」「完璧」のうち一方は使えるが、他方が使えないときの意味の解釈について分析する。

2a. ○二人の意見は完全に違う。

2b. ?二人の意見は完璧に違う。

3a. ?計画を完全に作った。

3b. ○計画を完璧に作った。

文例2ではどちらかというところ「完全」の方が適切で、3では逆に「完璧」の方が適切である¹。つまり、「完

全に違う」とは言えるが「完璧に違う」とはあまり言わない²。前述のベースより、「完全に違う」は「全体における枠の中の各要素・部分がすべて同じではない」ことを意味する。従って、2aは「議論全体の中の全ての論点で二人の意見が違っている」ことを表現しているのである。このことから「完全」は対象となる状況を<量>という視点を持って捉えていると考えられる。

一方、3の「計画」というものは物事を行うに当たって方法・手順などを考え企てることを表している。そして3bは、これ以上ないすばらしい方法・手順などを考え企てて作ることを表す。一般的にものごとの良し悪しを判断するとき、質という観点から判断できるものであると考えられる。つまり、「完璧」は「欠点がなく、すぐれてよいこと」の意味を表しているので、<質>という視点を持ってものごとの意味を捉えていると考えられる。

上記に述べた共通のベースを踏まえて、「完全」と「完璧」の違いをプロファイルの違いとして捉えることができる。つまり、2aのような「完全」は、ベースのうち「全体における枠の中で各要素・部分がすべて備わっている」方をプロファイルとし、<量>という視点を持ってものごとを捉えているという認知傾向が見られる。一方、3bのような「完璧」では、上記のベースのうち「質的に欠けてないこと、欠点がない状態」をプロファイルとし、<質>という視点を持ってものごとを捉えているという認知傾向が見られる。

3.2 中国語の類義語「完全」「完美」

次に、中国語の類義語「完全」「完美」の共通点と相違点について分析する。

4. ○他的解释还是不完全/完美。

(彼の説明はまだ完全/完璧ではない)

5a. ○他把希望完全寄托在公务员考试上

5b. *他把希望完美寄托在公务员考试上。

(彼は希望を完全/完璧に公務員試験にかけた)

壁」のみが12%、そして「完全」と「完璧」の両方が6%を占めていることから「完全」の方がより適切であることが分かる。他方、文例3においては、「完全」のみが0%、「完璧」のみが82%、「完全」と「完璧」の両方が9%を占めているので「完璧」の方がより適切だと考えられる。

² 文語として用いないが、口語として用いられる可能性がある。その場合は修辭的な強調の効果があると考えられる。

¹ 文例2、3でどちらの語を用いるのが適切に関しインフォーマントテストを行った。その結果、2では「完全」のみが74%、「完

6a. *製造了完全的产品。

6b. ○製造了完美的产品。

(完全/完璧な製品を作った)

4では「完全」「完美」は名詞として使われ、このときは入れ替え可能だが、5aのような副詞「完全」と6bのような形容詞「完美」は入れ替えできない。この入れ替え不可能性は文法的制約である。

意味上の「完全」と「完美」の共通点としては、両方とも「完」を共有していて「足りないところがなく、各要素・部分がすべて備わっている」という意味を持っている。これが共通のベースである。

この点を踏まえてさらに分析してみる。

7a. ○我的话还没有说完全。

7b. ○我的话还没有说完。

7c. ○我的话还没有说全。

(私の話はまだ十分意を尽くしていない)

ここでの「完全」「完」「全」は全て「各要素・部分がすべて備わっている」を表している。上記の7bと7cのような例文で示したとおり、「完全」を使わなくてもほぼ同じ意味を伝えることができる。

8. ○他把希望完全寄托在公务员考试上。

(彼は希望を完全/完璧に公務員試験にかけた)

ここでの「完全」も上記で述べたように「足りないところがなく、各要素・部分がすべて備わっている」というベースを持っている。プロフィールはこのうちの「全=すべて」に焦点をあてており、「各要素・部分がすべて備わっている」方を中心として捉えている。このようにベースとプロフィールではほとんど同じ意味であり意味が重なっていること、および、「完全」を用いなくてもほぼ同じ意味が伝えられることから、「完全」は<強調>の役割を持つ語として捉えられる。

他方、「完美」は共通のベースを踏まえて<美>をプロフィールとして捉えている。例えば、6bでは「製品の美しさ・美的な程度の高さ」を記述していると解釈される。また、次の例文も「完美」は共通のベースである「足りないところがないこと」の意味に加え、「美しくて立派である」という意味を表している。

9. ○他事事都要追求完美。

(彼は仕事ごとに完璧さを追求しようとする)

ここでも「完」の意味がベースで<美>がプロフィールとなっていることがわかる。

3.3 韓国語の類義語「完全」「完璧」

最後に韓国語の類義語「완전(完全)」「완벽(完璧)」の共通点と相違点について分析する。

10. ○완전/완벽하게 오염 문제를 해결했다.

(完全/完璧に汚染問題を解決した)

11a. ○이 신발은 완전히 수공으로 만든 것이다.

11b. ?이 신발은 완벽히 수공으로 만든 것이다.

(この靴は完全/完璧に手作業で作ったものだ)

12a. *계획을 완전히 짜다.

12b. ○계획을 완벽히 짜다.

(計画を完全/完璧に作った)

10では「완전(完全)」「완벽(完璧)」は入れ替え可能であり、意味も非常に近い。「완전(完全)」「완벽(完璧)」の共通点として「全体における枠の中で各要素・部分がすべて備わっていて、欠けていない状態」を表している。11aの解釈は日本語とほぼ同様である。従って、「완전(完全)」はそのベースのうち、「全体における枠の中で各要素・部分がすべて備わっている」方をプロフィールしている。一方、12bの解釈は「計画がすっかりできた」という意味になり、「素晴らしい」というニュアンスはない。「완벽(完璧)」は「欠けてないこと」をプロフィールして「완전(完全)」を強調していると考えられる。

4. 対照分析

前節の分析結果より、日中韓3ヶ国語で理想的な状態を表す類義語「完全」「完璧」の使い方いくつかの違いがあることが明らかになった。これは、各国語話者の理想的な状態の捉え方に違いが存在することを示唆している。本節では、対照分析を通してこの違いを明らかにすることを試みる。

日中韓3ヶ国語の「完全」「完璧」は、ベースとして「全体における枠の中で各要素・部分がすべて備わっていて、欠けていない状態」を共有することがわかった。「完全(日)」「完全(中)」「완전(韓)」では、プロフィールも「要素がすべて揃っている」ことであり、各言語でほぼ共通している。そして、

この場合は、理想的な状態を<量>の視点から捉えていると考えられる。

次に、「完璧」とその対応する言葉を日中韓3ヶ国語で比較・分析する。

13a. ○彼の言葉は彼の本音を完璧に表している。
(日)

13b. *他的话把他的底子完美给泄露出来了。
(中)

13c. ○그의말은 그의 속내를 완벽히 드러나게 했다. (韓)

文例 13 では、日本語と韓国語は適切だが中国語の「完美」は不自然である。それは、日本語の「完璧」と韓国語の「완벽 (完璧)」はともに、共通のベースのうち<欠けていない状態>がプロファイルとなっているが、中国語の「完美」は<美>がプロファイルとなっているためだと思われる。

<欠けていない状態>という点では日本語と韓国語のプロファイルは同じであるが、その中に違いがないかをさらに比較・検討する。

14a. ○設備が完全に整った。

14b. ○設備が完璧に整った。

14c. ○설비가완전하게 갖추어졌다.

14d. ○설비가완벽하게 갖추어졌다.

文例 14 では、日韓国語両方で「完全」「完璧」を入れ替えことができる。また、基本となるベースは殆ど同じである。しかし、14a と 14b の解釈は少し異なる。14a では「必要な設備が全部用意された」という意味だが、14b は「設備がすばらしい状態で用意された」というニュアンスになる。これは、日本語の「完璧」は「欠けていない素晴らしい状態」をプロファイルとし、特に<質>に着目して捉えているためである。それに対して、韓国語の 14c、14d ではほとんど意味は変わらないが、14d では 14c の揃っているという点が強調されている。「완벽 (完璧)」は素晴らしいとか美しいといったことを表わさず、「まったく欠けていないこと」をプロファイルとして捉え「완전 (完全)」の強調を表している。

以上のように、日中韓3ヶ国語では「完全」に関してはプロファイルがほぼ共通しているが、「完璧」ではプロファイルが異なることがわかった。すなわち、理想的な状態を捉える視点がわずかに異なると

考えられるのである。

5. まとめ

本論文では、日中韓3ヶ国語における理想的な状態を表す「完全」「完璧」を「ベース」と「プロファイル」により分析し、さらに各国語間の対照分析を行った。その結果、3ヶ国語で「完全」と「完璧」のベースは「全体における枠の中で各要素・部分がすべて備わっていて、欠けていない状態」で共通していることがわかった。そして、「完全」では、プロファイルとして「すべての要素が揃っている」という<量>的な視点を持つことも共通していることがわかった。一方、「完璧」では、日中韓3ヶ国語でプロファイルが少し異なることが明らかになった。その違いは、日本語の「完璧」では<質>、中国語の「完美」では<美>、韓国語の「완벽 (完璧)」では<欠けていないことの強調>がプロファイルとなる。

この差異から、理想的な状態を捉えるときに次のような違いがある可能性を示唆することができる。すなわち、まず<必要とされるものがすべて備わっている>ことを前提として、日本語話者は<質>に着目しているが、中国語話者は<美>に着目して捉える。そして、韓国語話者は、「すべて揃っている」ことを強調し欠けてないことを理想的な状態であると捉える。もしこのような違いがあったら、「完璧」だけではなく他の語の用法にもこういった傾向が現れているはずである。今後はこのような語彙の認知意味論的対照分析を進める必要がある。また、言語学的分析にとどまらず、より一般的な認知科学的分析や文化論的分析との関係も明らかにして行くべきである。

参考文献

- 石綿敏雄・高田誠 (1990) 『対照言語学』 桜楓社。
初山洋介 (2002) 『認知意味論のしくみ』 研究社。
松本曜 (2003) 「認知意味論とは何か」『認知意味論』 pp.1-16.大修館。
國廣哲彌 (1974) 「人間中心と状況中心」『英語青年』 pp.48-50.研究社。